

◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：伊奈町自然に親しむ会

23A-40

代表者：会長 白澤 章茂

URL :

1. 活動が必要とされた状況

現場の「さとやま公園」は、埼玉県施行の土地区画整理事業で計画された街区公園で、里山が残されていた。公園整備工事には、植生調査から参加し、開園後の利・活用と管理に係わることとなった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

基本的活動は、伊奈町長と公園管理に関する確認書を取り交わしている。

〈主な活動〉

- (1) こどもフェスティバル(県民活動総合センター・主会場)にサブ会場として参加し、利用した。
- (2) 町立小針北小学校の開校時から、公園名の公募やどんな公園にしたいかなどのアンケート調査を行った。また、卒業記念学年の巣箱づくりと設置の他、例年3、4学年(5～6クラス・250名内外)の総合学習で自然観察会を続けている。



3. 活動の成果

- (1) 総合学習の自然観察体験時の呼びかけに対して、その後の月例管理作業に少数だが参加があった。
- (2) 卒業記念製作の野鳥巣箱は、当初30個ほどで、取り付け以来、シジュウカラ、スズメの利用が多かった。6～7年の後、ツミ(ワシタカ科)が高木に営巣し、小鳥を餌にするようになり、巣箱の利用は少なくなった。代わりにミツバチやアリ、ゴキブリなどの利用があり、近年はアシナガバチの越冬利用が目立っている。
- (3) 2020年度に助成を受けた「手押し式刈払機」については、フェンスや構造物周辺の刈払い作業を試運転した。機械が軽く操作が楽で、高齢者や女性でも安全に刈払い作業が可能と思われる。



4. 今後に残された課題

- (1) 前記の巣箱がかなり壊れてきたので、作り直したい。ツミの餌を減らさないことやオオタカ、チョウゲンボウ(ワシタカ科)の生育域でもあることに配慮して。
- (2) 間伐材や枯損木が増え、ストック場所の堆肥化が間に合わないので、チップ化によるリサイクルを進めたい。
- (3) アズマネザサの生育範囲が広がり、植生が単純化し、一部でネジバナが衰退したように思われるので、対策を考えたい。